

経営比較分析表（平成28年度決算）

長野県 塩尻市

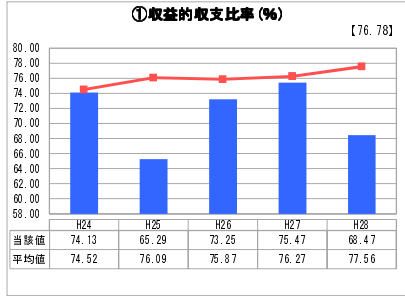
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D3	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	3.65	3,132	

人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
67,534	289.98	232.89
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
2,464	1.83	1,346.45

グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- [] 平成28年度全国平均

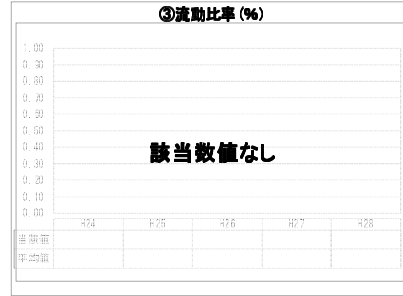
1. 経営の健全性・効率性



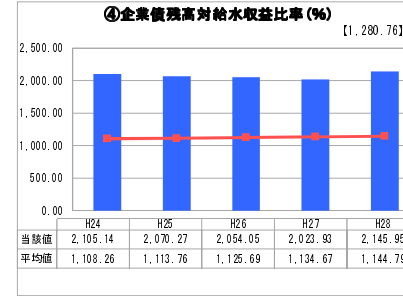
「単年度の収支」



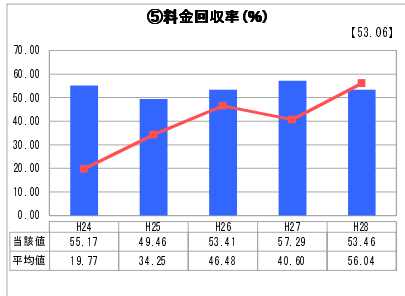
「累積欠損」



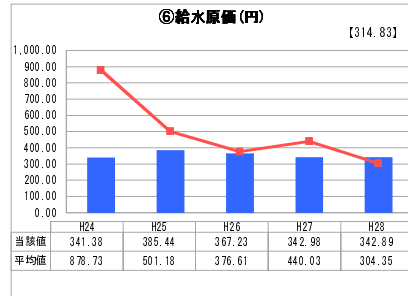
「支払能力」



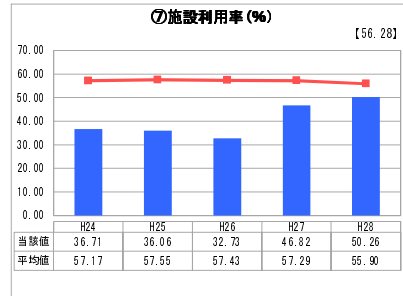
「債務残高」



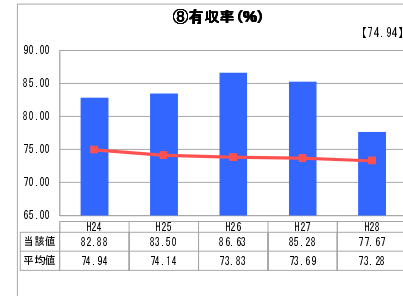
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

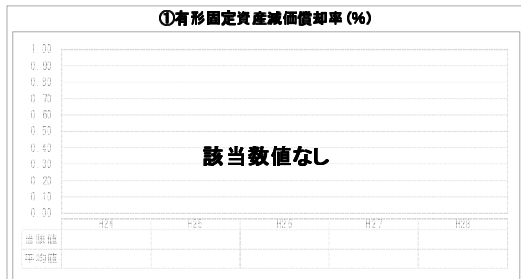


「施設効率性」



「供給した配水量の効率性」

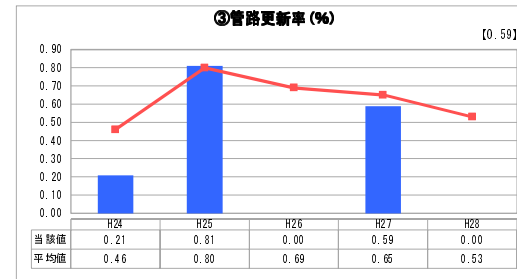
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率は、更新工事の財源として借入れた企業債償還金が多額であること、また、水道事業への統合により、打ち切り決算としたため、収益的収支比率は赤字となっており、一般会計繰入金によって経営を維持している状況となっています。

④企業債残高対給水収益比率は、浄水場の更新や水道事業へ統合するために企業債を借り入れたことから、給水収益の約20倍の規模の残高となっています。

⑤料金回収率は、水道事業への統合により、打ち切り決算としたため、類似団体平均よりも低い数値となっています。今後、人口減少により料金収入は減少していくことから、平成29年度に水道事業へ統合しました。

⑥給水原価は、横ばい傾向で、平成28年度は類似団体に比べ上回りました。山間地が多い地理的な要件により、給水に要する費用がかかっています。

⑦施設利用率は、類似団体平均より低くなっており、現在は、配水量の減少傾向により、指標の悪化が見込まれます。確実な供給能力を確保しながら、施設の適正な規模と機能の抑制の検討が必要です。

⑧有収率は、類似団体平均を上回り、高い水準となっています。漏水対策を進め、施設の効率性を向上させ、指標の改善に努めています。

2. 老朽化の状況について

③管路更新率は、類似団体に比べ下回り、この状態が継続すると、管路の健全性が保持できなくなるため、計画的な管路の更新を実施し、管路更新率を高めています。

全体総括

収入では、人口減少により料金収入が減少しています。一方、支出は、槽川浄水場の新設の財源として借り入れた企業債等により、元利償還金が増加しています。

料金回収率は、54%程度になっており、一般会計からの繰入金によって収支の均衡を保っており、経営状況は厳しいものとなっています。

このような経営状況を解決するために、スケールメリットを生かした安定的な経営基盤を構築することが必要であることから、平成29年4月に水道事業へ統合して運営しています。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。